

倒産集計**信用交換所京都本社**

09年9月繊維倒産

3社目の繊維上場破たん、依然先行き不透明

全 国 発生件数 = 42件 負債額 = 170億7700万円

2009年(平成21年)9月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)の発生件数は42件で、前月比で1件(2.3%)、前年同月比で6件(12.5%)減少した。

負債額は170億7700万円で、前月比で17億600万円(11.1%)増加し、前年同月比で41億800万円(19.4%)減少した。

負債額10億円を超える大型倒産はシルバーオックス(株)(大阪市北区、インナー製造、負債額57億円)をはじめ、(株)トップチエーン(兵庫県加古川市、紳士・婦人服・洋品小売、同30億円)、案山子屋商事(株)(岡山市北区、インテリア用品ほか小売、同10億円)の計3件。件数こそ少数にとどまったが、負債額はこの3社で全体の56.8%を占めた。

政府発表資料では一部景気の持ち直しを示しているものの、シルバーオックス(株)を含む年間3社の繊維関連上場企業の破たんは、2000年(平成12年)の(株)そごう、(株)長崎屋、藤井(株)以来であり、業界環境の厳しさが一層浮き彫りとなった。また、8-9月に第2四半期を迎えた繊維・流通(小売)上場のIRにおいても、一部ファストファッション系企業を除き下方修正が目立っている。当月も上記(株)トップチエーン、(株)ドン(富山市)など地区中堅小売業の破綻も相次いでおり、バブル崩壊以来続く価格破壊がさらに進んだことで売上確保に苦しむ企業の実体がより鮮明となっている。

政府が検討している中小企業向け融資の返済猶予制度などは、厳しい資金繰りを強いられている企業に助け舟となる施策として期待感もあるが、一方では金融機関の貸し渋りに拍車がかかるなどの慎重論も根強く、実施に向けては流動的であり、引き続き資金繰りに行き詰まる企業が散発するものとみられる。

業種別では、消費不振を反映して「小売商」が17件と全体の40.5%を占め、「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」が10件(23.8%)と高水準で推移した。そのほか「ニット製品・洋品雑貨製造卸」4件、「織物製造」「その他」各3件、「寝具・インテリア用品製造卸」2件、「紡績・撚糸製造」「染色整理・特殊加工」「呉服・和装製品製造卸」各1件。

原因別では、「業績ギリ貧」が30件で全体の7割超を占め、依然として不況型倒産が大勢を占めている。以下は「業況急変」5件、「放漫経営」3件、「貸し倒れ損失」2件、「過剰投資」「信用度薄弱」各1件だった。

京 都 発生件数 = 1件(前年同月2件) 負債額 = 8000万円

(前年同月1億4400万円)

滋 賀 発生件数 = 0件(前年同月2件) 負債額 = 0円

(前年同月6億800万円)